

会 議 録

会議の名称	第4回 長瀬町小中一貫教育検討委員会
開催日時	令和7年2月13日(木)午後7時00分～午後8時07分
開催場所	長瀬町役場3階 大会議室
出席者	委員11名 教育長(あいさつのみ) 事務局3名
欠席者	委員 4名
会議の内容	1 開会 2 教育長あいさつ 3 議事 (1) 検討状況の中間報告について (2) その他 4 事務連絡 5 閉会
会議の公開又は非公開	公開
非公開理由	—
傍聴人の数	4名
発言の内容	別紙「審議内容」のとおり
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回長瀬町小中一貫教育検討委員会 次第 ・長瀬町小中一貫教育委員会中間報告書(案)
事務局	教育総務担当
会議録の作成方針	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
その他の必要事項	

審 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1 開会

2 教育長あいさつ

井深教育長 (教育長あいさつ後退席)

3 議事

委員長)

それでは、これから私の方で議事を進めさせていただきます。

どうぞ委員の皆様方には、ご協力をいただきまして、奇譚のない意見を出していただければありがたいと思います。

(1) 検討状況の中間報告について

それでは、議事 (1) の検討状況の中間報告について、事務局から説明をお願いします。

(事務局から説明)

委員長)

ただいま、事務局から説明がありました。中間報告書を作るということで、前半は施設設備等が中心になってきた感じですがけれども、後半は今事務局で説明がありましたように、「長瀬らしさ」を含めた、教育内容等について進めていくというふうな状況です。ただいまの章立ての修正を含めて、委員の皆さんからご意見をいただければと思います。委員の皆様いかがですか。

委員)

前回の会議で思ったことや伝えたこと等が反映していただけてあって、良いと思います。

委員長)

他の委員はいかがですか。

委員)

読みやすくなったかなという感じを受けました。

委員長)

他の委員いかがですか。

委員)

どうしても目が何となく建物をの方に行ってしまうと、学校における教育体制などについての記載がちょっと物足りないんじゃないかという気がします。

委員長)

事務局の方に確認ですけれども、後半の「長瀨らしさ」、それから教育の内容等については、来年度以降の検討委員会で進めていくということによろしいでしょうか。

事務局)

今回はあくまで中間報告ですので、来年度以降も引き続き検討させていただいて、情報収集をさせていただき、「長瀨らしさ」という特色づくり、そういったものをどういった形で学校へ反映させていくか、最終的にはどういった形で学校施設を整備していったらいいのかというところは、改めて来年度以降に検討させていただければと思います。こちらにある中間報告は、ワークショップも含めて、施設的に今の敷地に入るのか入らないのか、そういった点も含めて検討させていただいたものですので、今年度においては、施設の話がちょっと多くなっていますが、最終的な答申については、先程申し上げた内容についても検討して入ってくることになるかなと思います。あくまでも途中経過という捉え方をさせていただけると良いかと思えます。

委員長)

おそらく「長瀨らしさ」、教育の内容等々に検討していく中で、この中間報告の内容についても、若干、修正等が入る可能性もあると思います。施設と内容が相互関係を持ちながら進めていかなければならないと思うので、来年度以降の会議もとても大事になるかなというふうに思っています。他の委員いかがですか。

委員)

2つ質問があります。

1つ目は、前回の会議の終了後に、この中間報告書の案に意見がある委員は、事務局にお知らせくださいということでしたけれども、その意見の内容というのはどんなものがあつたのかなっていうのを教えてください。

2つ目は、町のホームページで、小中一貫教育の検討委員会の議事録が事細かに掲載されています。実はそこが検討委員会が働いている内容が公表されているわけなんですけれども、そのことがあまりここに反映されていないで、アンケートの結果であるとか、ワークショップ、私たち検討委員会では、アンケートの考察であるとかワークショップに対して関わったっていうよりも、オブザーバー的に見ていたということなので、ホームページに掲載している内容をどういうふうにこの中に盛り込んでいるのかっていうところをちょっと聞きたいと思います。または、それは莫大な量なので、かいつまんで入ることはできないということで、町ホームページ上に議事録として掲載していると示しておいた方が良いのではないかと思います。

その辺、2点お願いします。

事務局)

前回の委員会の後、全部で5名の委員の皆様からご提言やご意見等をいただいております。全てを申し上げるのはなかなか難しいんですけども、その中から見られるキーワードとして、長瀬の特色づくりが大事なんだろうというところが見えておりました。ですので、中間報告書の最終ページに、「長瀬らしさ」というところがキーワードになるということで入れさせていただいているものでございます。多岐にわたるご提言をいただいております。学校運営に関して、義務教育学校がいいのか、小中一貫一貫型小学校・中学校がいいのかというご意見をいただきましたし、学校施設につきまして、新設がいいのか改修がいいのかという両方の意見をいただいたりもしております。部活の地域移行ですとか、地域住民の方々の取り組みについてのご意見をいただいているというところもでございます。非常に多岐にわたるご意見をいただいております。それをエッセンスとして集約して記載させていただいたのが、先ほど申し上げた最後のページの1ページになるのかなというふうに思っております。

また2つ目の質問で、委員会で議事録についてお話をいただきました。こちらも集約をさせていただいた上で44ページに、皆様のご意見を記載させていただいております。全てのご意見がここに掲載できてないということもありますので、議事録はホームページにありますといった表記等を追加させていただければと思います。

委員長)

いかがでしょうか。

委員)

今の話を聞いていて一番重要になるのは、この中間報告書の44ページ、45ページのところが、委員会における小中一貫教育に向けた意見であるとか、検討委員会の提言ということ、ここが我々委員がどれだけ活発な意見交換をしたり、考えてたかっていうのは示される場所です。先ほど事務局からお話がありましたけれども検討委員会からの提言の中の最後に、これは私の記憶が間違っていたら大変申し訳ないんですけど、「移住してきた家族が子育てしたいと思わせるような特色がある」という文章について、こういうことが委員会で話し合われたとか意見が出てきたのかどうかわかんないなど。こういう移住って言葉がポンと出てきたっていう、その経緯についても私達全員が確認しておかないと、知らなかったようだと私達が何をやってたんだって言われてしまいますので、その辺はどうなんでしょうか。

委員長)

事務局よろしいですか。

事務局)

今の移住の関係の話ですけれども、委員の皆様からの意見の中のひとつとして、もちろん地元で元々住んでおられるお子さんとその保護者の方、こういった方はもちろん含まれてると思ってるんですけれども、長瀬町に移住したい、長瀬町に住んでみたいと思うような学校づくりというものを目指したらいかがかといったご意見を複数の方からいただきました。ですので、そういった形で記載をさせていただきました。移住してきた人だけをということではなくて、もちろん元々住んでいる子どもたちのことも当然含めて、長瀬町ってこんないいところだよ、長瀬町ってこんな面白い教育やってるよね、特色ある教育やってるよねっていうふうなものを発信をして、またぜひ長瀬町にちょっと住んでみたいとか、長瀬町に興味を持っていただくというひとつのきっかけになればいいなということで加えさせていただいたものです。ちょっと誤解を招くような表現だったかとは思いますが、そういった意味合いで加えさせていただいたものでございます。

委員)

そしたら、今の説明のような文章に直した方が良くないかなと思います。この最後の2行は、「移住してきた家族が」が主語になってしまっている。もし来てくれた人たちがとか、魅力ある長瀬町なんだよっていうのをアピールしたいのであれば、この辺りの主語っていうのは考えないと誤解を招くのではないかと思います。

委員長)

このところはとても将来に向けての良い表現になってるんですけど「移住してきた家族」という文言を取ってしまっても良くないですかね。ここに住んでいる人たちあるいは入ってくる人たちが子育てしたいというような特色あるそういう教育ができていくかであるということで、どうですかね皆さん。長瀬町に住んでる若い人たちが子育てをするときの、育ちやすい環境、もちろん財政的な面も絡みますけれども、子育てしやすい環境というのは、保育施設であるとか、無償であるとか、あるいは送迎であるとかいろいろそういうふうなのが絡み合って子育てしやすい環境にあるというふうに思いますけれども、ここでは、「長瀬らしさ」を含めた、そういう教育の特色ある内容のものができるというふうなことを主眼に置いて、やっていければというふうに思いますけど。事務局いかがでしょうか。

事務局)

修正する方向で考えさせていただきます。

委員長)

私も1月に発行された検討委員会だよりを読ませていただきましたけれども、かなりの住民の方々が、関心を持ち始めたんじゃないかなというふうに思います。ホームページにも出ていますけれども、この委員会の内容の広報は大事だというふう

に思います。特に、若い方々に目が行くような内容を工夫していただいて、報告を出していただければありがたいです。他にご意見がございますか。他の委員いかがですか。

委員)

私も中間報告書を読まさせていただいて、非常に見やすくまとまっているのが印象です。あと、最後の提言のところで、「長瀬らしさ」というキーワードが出てきましたけれども、今後、教育課程とか、そういったところで深めていくひとつの方向性が示されたので、今後につながっていくのかなというふうに思います。

委員長)

先生方も相当関心を持ってらっしゃいますか。

委員)

「長瀬らしさ」を出すということがすごく大事で、ふるさと教育に繋がっていくかなと思います。そういったふるさと教育をさらに推し進めていく、ひとつの力になるのではないかなと思います。

委員長)

他の委員いかがですか。

委員)

中間報告書を読ませてもらったんですけど、ちょっと表現が読み取りにくいところがあったんですけども、例えば4ページの公共施設長寿命化計画の令和11年度まで書いてあって、これをどういうふうに進めていくのかなという計画の進め方がわからないのと、施設の構造とか、RC構造とか難しいことがたくさん書いてあってわかりにくい部分があるんですけども、その中で学校現場として、将来に夢とか希望を持たせるような教育活動、学校の行事とか地域の方を巻き込んでっていうことも含まれると思うんですけども、その中で、学校を卒業したら地域から出ていくというケースが、長瀬町の子どもたちは特に多いんですよね。寄居とか熊谷とかそちらの方に教育を求めていく家庭が多くて、その中で、長瀬町で教育を受けた子どもたちが小学校で勉強したこと、仲間との関係とか、あるいはボランティアとか、いろんな関係の中で、培ってきたものが脈々と続いている、細く長く続いている部分を感じることがあります。卒業生全員がこちらに住んで、将来生活するっていうのはなかなか難しいと思うんですけども、地域に何か誇りに思う、地域で勉強したことが、今の自分に生きている、そういった中で、長瀬を思う教育を学校としては進めている。その中で、人との関わりの中で、長瀬の町に貢献していく、そういった関係性みたいなものができてくれば、中学校としては、あとはもう個人の努力とか、個人の意識、あるいはこれからどういうふうにしたらいいかっていう、どういう生き方

をしたいかっていうところに繋がってくるところで、自分にとって豊かな生活が送れるような長瀬の特色を活かした教育を学校としては、進めていければなど、特に子どもたちの数が少なくなっているので、2050年問題もありますし、そういった中で、移住の話もありますし、またはその学校こちらの方からどういう形であれ、関係をいつまでも持ち続けてくれる人がいれば、地域の活性化にも繋がるし、人口減少も少しずつ違う方向で、いい意味で、もしかしたら長瀬町が活性化するためのそういった教育、教育が根本的になっていければなど、貢献していければなどというふうに思います。その中での学校、新しい学校を作るとか、小中一貫校で進めて行くということを、学校としては、検討していきたいなと思いますけども、ちょっと思っていることを述べさせていただきました。

委員長)

ありがとうございました。

私も今年から検討委員会に関わっていますが、おそらく長い間、教育委員会はこの少子化の中で、いずれ各学年が1クラスになってくるだろうというふうなことで、それから施設設備が老朽化してるというふうなことで、この2つがおそらくこの小中一貫校に持って行く、ひとつの骨組みだったというふうに思うんですよね。これから維持補修をしていくのに相当な金額がかかる、さらには、各学級が中学校も含めて1クラスになっていく、そういうふうな中で、効率的に教育を行っていくには、財政的な面も含めて、何がいいだろうということで、おそらくこの小中一貫校の考え方が出てきたんだろうというふうに思います。全国でも、もうこの動きが加速してるっていうんですかね、こうしないと財政的にも大変だぞと。さらには小学校の授業あるいは中学校の授業をするにしても、専門の先生が定数的にいなくなるというふうなことで、非常勤対応だとかそういうふうになってくるんだろうというふうに思います。そういったところで、小中一貫校が、これが教育の効率化を含めてとても良い方法だろうと、私もこの委員長を仰せつかるに当たって考えたのが、この2つの柱を改善するには、この小中一貫校しかないんだろうなというふうに思ったんです。そういう中で、前半、このワークショップの意見を取り入れながら施設設備をどういうふうにしていったらいいかというふうなことで、中間報告がまとまってきたんだろうと思います。先ほども言ったように、今後、教育の内容について詰めていく中で、この施設設備を念頭に置きながら、施設にも若干修正が入るかもしれませんが、さらには詰めていく中で財政的にもおそらくあの資材等も高騰してきますので、なかなかこれ思うようにいかないぞ、どうしたら良いのだろうかという課題がクローズアップされてくると思うんです。県内で大学の医学部ができるという話もあったけれども、試算したら、資材費などの経費がものすごく高騰して、大

学が諦めたんですね。施設設備が高騰としてるっていうことは、本当にこれ大変だなと思いますし、そういうふうな意味では、これに2、3年進めていく中で、大変な問題も起こってくるんだらうというふうに思うんですね。そういうふうな意味では、私どものこの検討委員会では、施設のあり方とそれから教育のあり方、その辺のところをできるだけわかりやすく、町民にも伝えやすいような形で意見を皆さん方から言っていただいて、答申をしていけばよろしいかなというふうに思っております。ちょっと長くなりましたけれども、他にご意見ございますかね。他の委員いかがですか。

委員)

全ての会議に出席しているわけではないので、私が聞き漏らしてるのかもしれないんですけど、30ページに40年間で42億の経費が必要だと。それも含めて、ワークショップでは、新校舎で運営するというを条件に、開催されたっていうのが書いてあるんですけど、それで話が進んでるっていうことは、ほぼこの方向で行くと、それで検討していくということでしょうか。それがなんか僕の中ではちょっと曖昧なので話が入ってこない。決まってるんだったら、それでもっと話をした方が進むのかなっていうのが1点です。例えば施設を維持するのに、ここに42億とあるんですけど、建て替えるとどのぐらいの経費がかかるのか、前回の会議の資料には出てたかと思います。出さない方がいいという意見ももちろんあると思うんですけど、私は出した方がいいのかなと思います。それを見た上で、ちゃんと判断した方が、後々話を進めたときに問題にならない、すっきりした形で、そんなん聞いてないよっていう人がいるとは思いません。気になったのは、タイムスケジュール、やっぱり建てるのが5年目、6年目となると、さっきあったように資材の高騰がすごいので、2割増し、3割増しの予算になっちゃうんじゃないかってのは、ちょっと心配しました。以上です。

委員長)

事務局よろしいですか。

事務局)

初めに、建て替えることが決まっているのかというご質問だったかと思いますが、特にそういうふうに決まったわけではございません。なぜこのような形でワークショップ実施したかということですが、第2回の委員会で、委員の皆様にご意見を伺ったところ、建て替えたほうが良いのではないかというご意見が多かったというところがあり、ワークショップでは建て替えを前提に検討させていただくことといたしました。また、事業費を明示した方が良いのではないかというお話もあったかと思いますが。前回の報告書の案には事業費を入れさせていただいたんですけど

も、そこに記載していた額は、あくまでワークショップにおける集約案の施設を造ろうとするとあの費用という形で試算させていただきました。委員の皆様からもこの段階の事業費を記載するのはどうかといったご意見ををいただいたり、実際あの集約案の施設を建てるということが決定しているわけでもないのに、今回の報告案からは削らせていただいたところがございます。もうひとつご意見をいただいたのは、今後40年間で42億の維持費がかかるという点についてだったかと思いますが、令和2年の3月に策定した、長瀬町公共施設長寿命化計画の中で試算をしたものがこの金額になってございます。ちょっとご注意いただきたいのは、この額は令和2年3月の時点での概算費用でございます。ここ数年で、相当、資材や人件費が上昇しており、今計算すると、もう少し大きな額になると予想されます。その試算は、なかなかすぐできるものではないので、令和2年3月時点での金額ということで出させていただいたものです。ですので、前回の報告書案で示した概算費用とは、直接比較が難しい数字なのかなと考えております。その点も含めて、前回の報告書案の概算事業費を出すと、そういった額にとられるということがあって、今回の報告案では削らせていただいたということがございます。

委員長)

他の委員どうですか。

委員)

新しい建物ができるとすると、すごい楽しみなことだなと思います。ひとつ気になるのが、通学手段についてですが、その辺も検討していくと思うんですけど、どういった手段を考えているのか伺えればと思います。

委員長)

ちょっと先の話ですけど、事務局いかがでしょうか。

事務局)

校舎の位置が決まってからでないと、通学の手段というのは決まらないのかなと思います。また、児童生徒の人数などにもよるかなと思いますので、もうちょっと時間が経ってから、検討させていただくことになるかと思います。

委員長)

他の委員いかがですか。

委員)

ちょっと的が外れるかもしれないんですけども、4ページに今後10年間のロードマップというのが出てるんですけど、旧第二小学校の跡地活用は具体的に決まっているのでしょうか。その他にここには出てませんが、中央公民館は、当然、修繕が入ってくるんじゃないかなと思うんですけども、ここに入れるべきなのかと思

うのですが、学校とはちょっと違うかもしれませんが、長瀬町公共施設長寿命化計画であれば必要なんじゃないかなというふうに思います。

委員長)

事務局いかがですか。

事務局)

4ページにつきましては、長瀬町公共施設長寿命化計画の中から抜粋したものでございます。中央公民館が入っていないということでしたが、学校施設だけ算定ルールが違うことから、ここには学校施設だけを書かせていただいているものでございます。旧第二小学校の跡地活用については、別途、検討委員会を立ち上げて検討していくと聞いているところでございます。4ページでちょっと注目いただきたいのは、一番下の表に、各学校施設とも長寿命化と書いてあるところが結構出てきていると思います。これは、もし今後も今の学校施設を使っていくとすると、長寿命化改修工事をやっていかなきゃいけない段階に来ているということが示されています。そういったことが、令和2年3月に策定した長瀬町公共施設長寿命化計画に記載されており、今回の検討委員会の中で協議したというわけではなくて、過去に立てた計画で明らかになっているということでございます。併せて、先ほど他の委員から、ロードマップという言葉がわかりづらいという話もありましたが、計画の中でロードマップという言葉を使用しているもので、ここでも言葉を使用しているものでございます。

委員)

ということであれば旧第二小学校は除いた方が良いのではないですか。

事務局)

長瀬町公共施設長寿命化計画を立てたときに旧第二小学校が入ってしまっているので、ここにも入れさせていただいているものでございます。計画の性格上入ってしまうということでご承知おきいただければと思います。

委員長)

金額については、もうわからないですね。相当、変わってくると思います。

他の委員いかがですか。

委員)

そもそもの話で、設計もまだ案ということで決まっていたわけではなくて、これがもしかして建て直しではなく、今使っている校舎を改築してっていうことはあるのでしょうか。それと、先ほど、委員長がおっしゃったように、計画は進んでいたものの、諸経費の高騰で計画が頓挫して中止になるといったようなこともありうるのでしょうか。

もうひとつは、前回の委員会の後に意見をということで私も述べさせていただいたんですが、教育内容とか現在行っている小中一貫校の見学をされている議員の方もいらっしゃると思うんですが、その方たちの見られたときの感想等っていうのは私たち委員の方はどれくらいの方がその内容をご存知かというところと、実際にそういったところで見学されてたとの声っていうのを伺えればこれからもう考え方がちょっと変わるかなっていうふうなことをちょっと思いましたので、ご回答いただければと思います。

委員長)

とてもいい質問だったんですけど、事務局お願いします。

事務局)

建て替えるのかそれとも改修かという点ですが、まだ、どちらにするということで決まっているものではございません。引き続き検討し、検討委員会で答申を出した後に、町がどうするかと決めて、最終的には議会でどのように決定されるかということになるかと思えます。これまでの委員会の中でも申し上げさせていただいてるとおり、また、先程見ていただいたとおり、今の校舎を改修するにしても相当な金額の改修費がかかります。また、今、ここで改修しても町が目標としている建物の使用年数、コンクリート造で85年ということになるんですけども、それを全うすると30年後には建て替えが発生するということになるかと、トータルコストでどちらがいいかという判断になるかなというものでございまして、どちらの可能性も今の時点ではあるということになるかなというふうに思えます。それともう1点、議員が行かれた視察の情報共有という話だったかと思うんですけど、情報共有というか、町の方から議員に対しての説明はさせていただいているところで、情報共有を図っているという形でございます。委員の皆様へのご提供は今のところできていないかなというふうに思えます。

委員長)

教育内容等を検討する来年度以降、そのところで見学された議員の意見なんかも途中でちょっと入ってもよろしいかなというふうに思えます。

事務局)

情報収集というところを申し上げさせていただいたんですけども、どういったことができるかというのはちょっと考えさせていただきたいと思えます。先ほど教育長から話がありましたけど、情報収集の一環として研修会を実施させていただきたいと考えております。まさに教育の最前線でやっておられる方の講演ということでお願いできましたので、情報収集のひとつになるのかなと、最前線の最新の情報が取れるかなというふうに思えますので、委員の皆様にもぜひご参加いただきという

ふうに思っております。

委員長)

昨日ニュースを見たときに、八潮市の下水道陥没の話題が出ていました。あれを復旧するのに50億円ぐらいかかるというふうに言ってました。40年から50年経つという、ああいう状況が起こりうるというふうなことで、各自治体は、他人事ではないというふうに捉えてるんだろうと思います。だから、校舎も50年経つてくると、基本的な耐久年度に達しているというふうなこともありますので、そういう視点に立ってみれば、個人的な意見ですけど、思い切って新しい施設にしていって、ということも大事なのかなというふうには思いますね。

この中間報告について他にご意見ございますか。よろしいでしょうかね。

それではですね、委員の皆様から意見を頂いた文言の修正等を行った上で、この中間報告案で今年度の検討状況を教育長に報告するというところでよろしいでしょうか。まだまだ議論していかなければならないところがあるかもしれませんが、中間報告ですので、教育長の報告をするということではよろしいですか。

それでは議事の(1)を終了させていただきます。

(2) その他

委員長)

続きまして議事の(2) その他ということで、委員の皆様から何かございますでしょうか。

ちょっと余分な話になりますが、来年度も教育内容等々について検討を始めるときに、またコンサルタント業者の意見だとかそういうふうなのを進めていく可能性があるんですか。

事務局)

来年度については、現在予算を編成中でありまして、町から議会に上程する案がまだ固まっていない状態でございます。また、議会の議決によりましてどのような予算になるか決まっておきませんので、現段階では何とも申し上げられないという状況でございます。

委員長)

もし委託するようなことがあったときには、教育内容も含めて、先進的なものではなくても良いので、長瀬に合わせた資料などがあればよろしいかなと思います。

よろしいですか。それでは、議事(2)のその他は終了とさせていただきます、予定をしておりました議事は全て終了しましたので、本日の議長の任を解かせていただきます。

4 事務連絡

事務局)

小中一貫に係る研修会を実施しますので出欠のご報告をお願いします。

5 閉会

事務局)

以上をもちまして第4回の検討委員会を閉会させていただきます。本日は大変ありがとうございました。